

経済・金融 フラッシュ

4月 BOE 金融政策委員会:総選挙 を控え、現状維持を継続

経済調査部門 主任研究員 伊藤 さゆり

TEL:03-3512-1832 E-mail: ito@nli-research.co.jp

イングランド銀行(BOE)は7~8日に開催した金融政策委員会(MPC)で政策金利の0.5%での据え置きと資産買い取り(量的緩和)枠の2000億ポンドでの維持を決めた。

5月は新たな「インフレ報告」の公表月となるが、見通しが大きく修正される可能性が低い一方、6日に総選挙が実施、財政政策の不透明感が強いため、市場環境の急変がなければ、政策変更もないだろう。

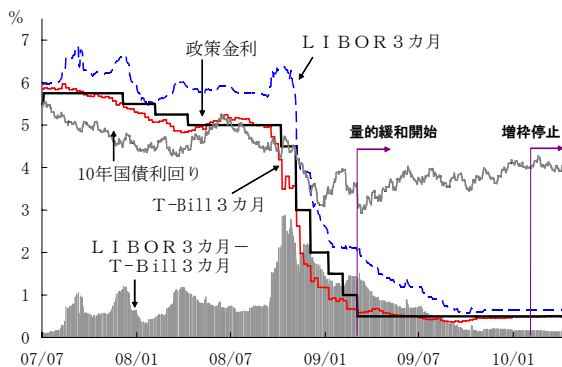
総選挙の争点である財政再建に対しては、景気への配慮から慎重な立場をとる与党・労働党に対して、最大野党・保守党はより積極的に歳出削減を進めようとしている。世論調査では保守党が優勢だが、労働党の盛り返しや自由民主党の支持拡大でリードは縮小しており、流動的な情勢だ。

(現状維持を継続)

イングランド銀行(BOE)は7~8日に開催した金融政策委員会(MPC)で政策金利の0.5%での据え置き(図表1)と中長期国債等の資産買い取り(量的緩和)枠の2000億ポンドでの維持を決めた。2月の「インフレ報告」での想定どおり、緩やかな景気回復過程が続き(図表2)、雇用の悪化にも歯止めがかかりつつあることや、5月6日に決まった総選挙を控え、財政政策の先行きが不透明なことから、今回の現状維持の決定は大方の予想通りであった。

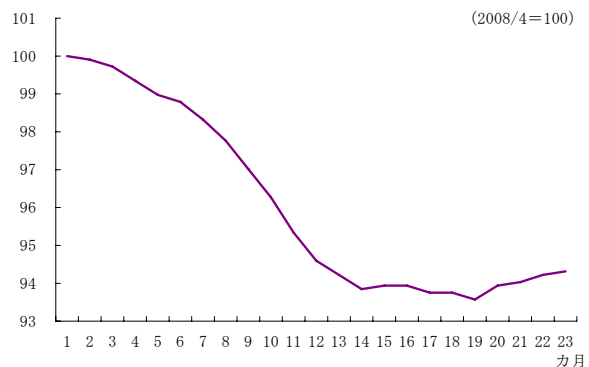
現状維持の今回は声明文の公表はなく、議論の詳細は21日公表の議事録を待たねばならないが、今回の決定も全会一致であったと思われる。

図表1 BOEの政策金利と長短金利



(資料)BOE

図表2 月次GDPの推移



(資料)NISER Monthly Estimates of GDP

（ 続く「ハングパーラメント」の可能性、5月もBOEは様子見を継続 ）

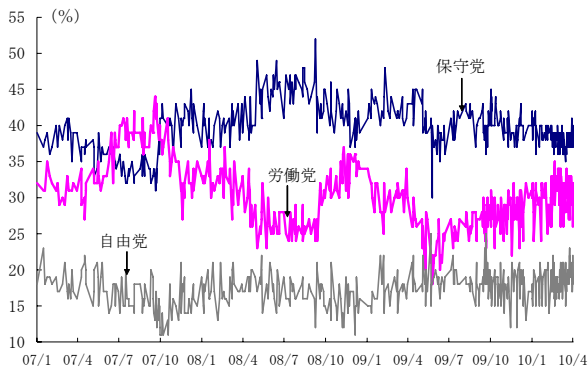
5月のMPCは当初予定の日程が総選挙と重なるため、7日、10日に開催されることになった。5月は政策判断の叩き台とされる新たな「インフレ報告」の公表月だが、見通しが大きく変更される可能性が低いことに加えて、財政政策面での不透明感も残ることから、市場環境の急変がなければ、政策変更もないだろう。

総選挙の争点である財政再建に対しては、景気への配慮から慎重な立場をとる与党・労働党に対して、最大野党・保守党はより積極的に歳出削減を進めようとしている。世論調査の結果は機関によって幅があるが、ピーク時には20%を超えていた保守党のリードが10%を割り込むようになってきている（図表3）。保守党の財政再建策への不安が広がる一方、労働党が盛り返し、中道左派の第3党・自由民主党も支持を拡大しているからだ。

現時点では、「支持する政党はあっても投票する政党を決めていない」とする有権者の割合も高いことから、13年ぶりの政権交代となるのか、「ハングパーラメント（どの政党も過半数の議席を持たない状態）」となり1974年のように少数与党が政権を運営することになるのか、それとも自由民主党が加わる連立政権の樹立となるのかなど流動的な情勢だ。

足もとの長期金利反発、ポンド相場の反落は、「ハングパーラメント」の可能性の強まりを反映した面が強く、総選挙までの間、世論調査の結果に振られやすい展開が続きそうだ。

図表3 政党支持率



（注）各種世論調査結果を時系列で表記したもの

（資料）UK POLLING REPORT

図表4 ポンド相場の推移



（資料）BOE

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。